

# 証券市場新聞

1 第157号

日経平均株価

2万2351円06銭

▲88円46銭(前日比)

TOPIX

1667.45

▲7.98(前日比)

2018  
12/3  
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



## セカンドラリー狙う銘柄は？

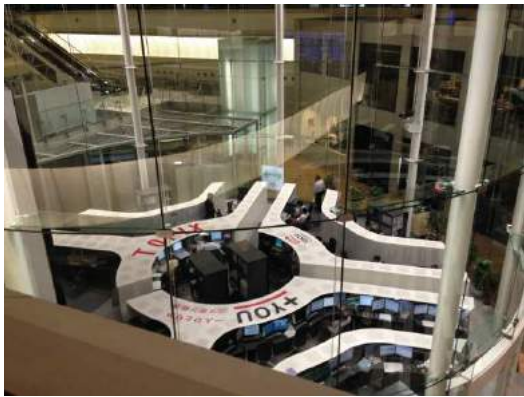
### 今年最後のIPOラッシュを迎える

大納会まで残すところ1カ月を切り、今年最後のIPO(新規公開)ラッシュを迎える。国内外の株式市場が10月に入り大幅に調整、上昇の牽引役となっていたアップルを筆頭とするFANG(フアング)と言われる銘柄群の業績悪化懸念で物色の方向性が見えないなか、東京市場では需給面で不安がなく成長期待が強い直近IPO銘柄が個別で賑わっている。全般不透明感が続くなか、12月もセカンドラリーで狙える銘柄には個人投資家の売買が活発化しそうだ。

### 需給不安なく成長期待強い

うえ、直近IPOで

12月IPOの最トバンク(9434)大の注目企業はソフトだが、同社株を含め



12月は19社が上場する

11月のピーク(704)を突破し、12月は19社が上場する。ソフトバンクの上場により個人投資家に関心がIPOに向かい易い。2月最初のIPOと

は10月12日公開のイーソル(4420)が初値4000円から6500円台にまで急騰するなど、上場後も好パフォーマンスとなる銘柄が散見されることから、12月IPO銘柄群も成長期待が高い銘柄には初値形成後の押し目は積極的に買われる展開が想定される。

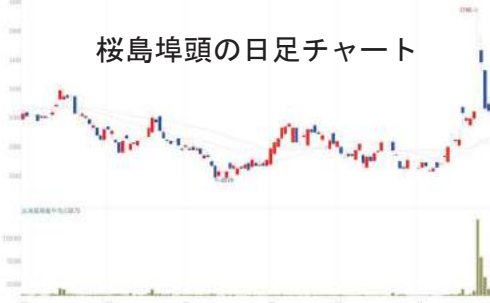
日経平均日足チャート



なるピアラ(7044)はAIを活用したマーケティングオートメーションプラットフォームフォームという事業内容から事前の評価は高い。仮条件の上限2550円から初値は数倍との強気もあるが、初値形成後もセカンドラリーには格好の物色対象

になりそうだ。19日上場となるKudan(4425)はソフトバンクとの同日上場なることから印象が薄い。人工知覚技術の研究開発という業態からIPO直後の一時的な人気では終わらないとの評価が高い。知名度ではレオス・キャピタルワークス(7330)だろう。数々のファンドを組成運用した実績から個人投資家にも馴染みが深い銘柄でありソフトバンクに続く話題銘柄となる。

桜島埠頭の日足チャート



# 万博関連に買い

## 2025年大阪開催で決定

投票でロシアのエカテリンブルグを破り大阪に決定したことを受けて関連銘柄が幅広く買われた。本紙既報の通り、開催地の大阪市此花区に

週明け26日、日本が大坂招致を目標とする2025年国際博覧会(万博)の開催国が11月の23日のBIE総会の決戦

の開催国が11月の23日のBIE総会の決戦

の開催国が11月の23日のBIE総会の決戦

本拠を有する桜島埠頭(9353)や土地を持つ杉村倉庫(9307)がストップ高、1970年の大阪万博の実績を有し、数々のテーマパークも手掛けた三精テクノロジーズ(6357)が大幅高となり、建設では関西地盤の森組(1853)や南海辰村建設(1850)、警備では東洋テック(9686)が高い。大阪市中央区の運送13社統合で設立されたヒガシトウエン

今週の動意銘柄

テイワン(9029)も荷動き活発化への期待からストップ高まで買われた。

### gumi乃木坂ゲーム

26日、gumi(3903)がストップ高。スマホ向けアプリゲーム「乙女神楽」の制作を決定した。人気アイドルグループの乃木坂46のメンバーが出演する「ザンビプロジェクト」の一環として開発、19年の配信を予定している。

## 多木化1対2株式分割

27日、多木化学

(4025)が急伸、東証1部値上がり率トップに立った。26日の取引終了後、12月31日を基準日として1対2の株式分割を実施すると発表されたことが材料視された。株式流動性拡大を

評価する動き。

### ハリマ化大幅高で新値

27日、ハリマ化成グループ(4410)が大幅続伸、年初来高値を更新した。子会社のローター社を通じて、スウェーデンでバイオディー

### ジャストプラス高

26日、ジャストプラス(4287)がストップ高。子会社のスマートフォンオーダーシステム「Put menu」が、丸井グループ(8252)のクレジットカード事業会社が提供する「エポスカード」に対応したと発表した。12言語対応により、訪日客の注文にも対応することが可能で、今後の利用拡大を期待した買いを集めた。

## 正直いいさんの株で大判小判

30日の東京市場は前場は小動きとなっていました。後場からは若干、上げ幅を拡げる動きになりました。10月鉱工業生産指数が予想を上回る一方、前日の米国株が安く、中国11月製造業PMIが予想を下回り、方向感のない展開でした。G控えて売り控えて売りましたが、ことからは後たつたようでは、よほど悪い話がない限り、イベラ上値を取る動きと見えていますが、2万3000円が、必要でしょう。上昇エネルギー必要

銘柄ではソースネクスト(4344)やジャムコ(7408)が一段高に進み、ハリマ化成(4410)や万博関連の三精テクノ(6357)も底堅く推移。低位のアルデプロ(8925)を含め週明けに期待です。花咲翁



力に50%拡大する計画で、今後の収益貢献が期待された。(4面企業観察参照)

### フーバー提携も利食売

27日、フーバーブレイン(3927)が急反落。IoTとAI導入支援を業務とする

東証PRO上場のビズライト・テクノロジ(4383)と業務提携することを発表した。共同プロジェクト第1弾はビズライト・テクノロジの新製品を開発する。

企業観察

アズワン(7476)

「攻め」の経営に意欲



19年3月期の第2四半期累計(4~9月)は売上高307億8600万円(前年同期比10.3%)

アズワン(7476)は11月27日に大阪市西区の本社で決算説明会を開催、井内卓嗣社長(写真)は「利益率向上への取り組みが表面化している。M&Aや提携なども進めており、研究室のトータルソリューションプロバイダーを目指す」と攻めの経営に意欲を見せた。

M&Aや連携効果も表面化

アズワン(7476)は11月27日に大阪市西区の本社で決算説明会を開催、井内卓嗣社長(写真)は「利益率向上への取り組みが表面化している。M&Aや提携なども進めており、研究室のトータルソリューションプロバイダーを目指す」と攻めの経営に意欲を見せた。

29日、ニイタカ(4465)が反発。中国に子会社を設立すると発表した。江蘇省泰興経済開発区との投資協議がほぼ

ニイタカ中国子会社

29日、ニイタカ(4465)が反発。中国に子会社を設立すると発表した。江蘇省泰興経済開発区との投資協議がほぼ

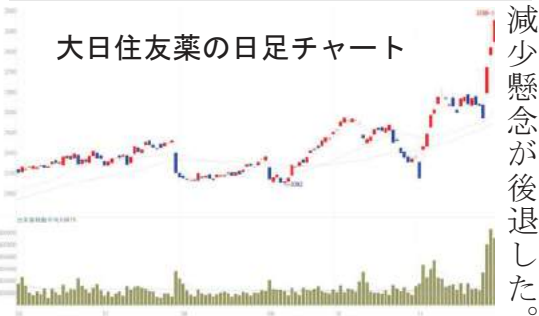
チェンジ5連騰で最高値

29日、チェンジ(3962)が5連騰で最高値を更新した。日本最大級のふるさと納税のプラットフォームフォームビジネスを主力事業として地域創生に取り組みトラストバンクを子会社化すると発表したことが手掛かり。

大日住友急反発し新値

和解立で販売減少懸念後退

28日、大日本住友製薬(4506)が急反発、年初来高値を更新した。抗精神病薬「ラツターダ」の米国特許侵害訴訟で和解が成立したと発表されたことが買い手掛かり。今回の和解で全ての被告との紛争が終結、後発品の販売は23年2月21日以降となり、特許切れによる販売



花王は積層型極薄膜

28日、花王(4452)が急反発。直径がサブミクロンの極細繊維を肌に直接吹きつけることで、軽く、やわらかく、自然な積層型極薄膜を肌表面につくる「ファイナファイバー技術」を開発したと発表されたことが買い手掛かりになった。製剤と組み合わせるとスキンケアやメイクなど化粧品で、これまでの常識を超える新しい提案の可能性で、将来は治療領域への応

ミロク情CB発行で急反落

29日、ミロク情報サービス(9928)が急反落。110億円のユーロ円建転換社債型新株予約

公開価格93%上回る

霞ケ関キャピタル(3498)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格3240円を92.6%

ティア希薄化懸念

28日、ティア(2

485)が急落

27日の取引終了後、200万株の公募による新株式発行を発表しており、増資による一株当たり利益の希薄化懸念が台頭した。葬儀会館の新設などに充当するとい

企業観察

ハリマ化成G (4410)

サンパイン社を持分法に

ハリマ化成グループ(4410)は子会社のローター社を通じて、スウェーデンで粗トール油からバイオディーゼル用脂肪酸とトールロジンを製造するサンパイン社の株式を追加取得、持分法適用関連会社にした。取得額は2040万ユーロ(約26億2000円)で、出資比率は24.6%になった。ローターはオランダに本拠を置くロジン関連製品メーカーで、サンパインは製造したトールロジンを全量ローターに納入している。今回の追加出資は「グループとしてグローバルに原料調達体制を強化して市況に左右されない安定し

原料調達強化と連結収益押し上げ

た収益をあげることが狙い(広報)。現在、世界全体でグループ内原料調達比率は約6割だが、サンパインはトールロジンを20年までに50%増産する計画で、調達比率は約7割に高まる。連結貢献については、今期業績への影響は軽微ながら、サンパインはトールロジン生産を開始してから順調に収益を拡大しており、前年度で営業利益32億円を計上している。通期貢献が見込める来期は、単純計算で配当3億円と合わせて約11億円収益を押し上げることになり、のれん償却負担を加味しても大きなプラス要因だ。

今週の動意銘柄

30日、鳥居薬品(4551)が急伸、東証1部値上がり率トップに買われた。JT(2914)との抗HIV薬6品のライセンス契約を終了すると発表。契約終了による販売減は懸念されるものの、株価への織り込みが進んでおり、売却益406億円が発生することから、悪材料出尽くしと受け止められた。30日、内田洋行(8057)が続落。19年7月期の第1四半期の連結決算を発表。営業利益は9000万円(前年同期比82.3%減)だった。小中高校向け教育ICT分野で大型案件が第2四半期以降に延伸した。

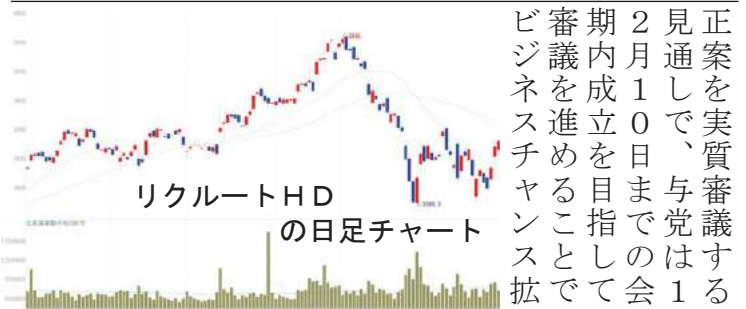
内田洋行82%営業減益

人材関連総じて高い

外国人労働者拡大で思惑

リクルート(2124)など人材関連銘柄が総じて高い。参院法務委員会は外国人労働者の受け入れを拡大する出入国管理法改

29日、リクルートホールディングス(6098)やアウトソーシング(2427)、エイエイシー(1242)など外国人労働者拡大で思惑



大への思惑から短期資金が向かった。高い値を付け調整が続いており、ごろ感からの押し目買いや買戻しも誘発した。原油関連軒並み高

12月相場はマザーズに注目

11月相場が終わりました。10月の急落に対し11月は陽線形成となりました。10月の下値は24カ月線でサポートされた形で、11月は12カ月線がレジスタンスとなりました。今年の月足の陰陽は6勝5敗。さて、12月相場はどうなるのでしょうか。この週末に米中首脳会談が開催されます。その結果によっては上下激しい乱高下もあり得ますが、12月は特異な月であり、特に新興市場のマザーズは過去10年間の成績が9勝1敗とすこぶる好調な月です。これはIPOが急増することと関係があるものと思われます。本年は年内20社のIPOが予定されており、最大の注目はソフトバンクです。12月19日上場予定であり、資金吸収額が大きいために換金売りに晒される可能性も否定できませんが、セオリーにつくならマザーズ市場狙いということになりそうです。



日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

## 潮流

## 今年最大のポイントに

## 日経平均2万3000円大台超え期待

marKet / bAnk

11月28日の米株式相場は大幅に上昇し、底打ち感と先高感が強まった動きとなった。ダウ工業株30種平均は617ドル(2.5%)高の2万5366ドルで終えた。上げ幅は3月下旬以来、約8カ月ぶりの大きさを月間でも上昇に転じた。ハイテク株の比率が高いナスダック総合株価指数は208ポイント(2.9%)高の7291で終えた。

GAF Aといった代表的IT株のグーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンなど主力株が軒並み大幅高となった。特に株式市場全体に大きな影響を与えるアップルは3.85%上昇して終えた。10月に入って25%も値下がりし、底が見えなかったことに投資家は警戒感を強めていた。パウエルFRB議長は28日の講演で、政策金利について「景気を加速も減速もさせない中立水準よりわずかに低い」と述べた。10月3日の講演では中立金利は「まだ遠い」と語り、利上げ局面が長引くとの思惑を誘い、金利上昇と株安につながった経緯がある。利上げに前向きな「タカ派」色が薄まったとの見方から、米国株に買いが入った。

米ニューヨーク・タイムズ(電子版)は27日、

複数の政府関係者の発言として、米中首脳会談が「停戦の舞台になる」と報じた。トランプ米大統領は貿易戦争が金融市場や経済に与える影響を懸念している。問題解決に向け米中が交渉する数カ月間は新

たな関税を遅らせる可能性があるという。

米中が12月1日の首脳会談の中で、貿易交渉について何らかの合意に至るとの期待が浮上している。貿易戦争が収束する内容となれば、米国や中国、日本など世界の株式市場は大幅に上昇することになる。まさに今年最大の注目ポイントだ。トランプ大統領は株式相場の動きに非常に敏感で、米中首脳会談では大きな前進を望んでいると首脳会談に楽観的だ。会談が不調に終われば中国からの全輸入品に制裁関税を課す考えを重ねて示しているが、その代償も大きい。年末ラリーに入るとダウ平均は2万6000ドルの大台を回復し、12月末には上場来高値(2万6951ドル)を更新することも考えられる。日経平均は2万3000円の大台を超える動きが期待できそうだ。

潮流銘柄はリンクバル(6046)、オークファン(3674)、アイエクス・ナレッジ(9753)。



岡山憲史氏(株式会  
社マーケットバンク代  
表取締役)のプロフイ  
ル

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

## 米中首脳会談は停戦の舞台

リンクバルの日足チャート



# チャートから読む 騰落銘柄

## MCJ (6670)



11月28日安値712円から切り返す。25日線まで戻せば、11月上旬の急落前水準である900円台までの戻りがありそう。eスポーツプロチームとスポンサー契約締結、高採算のゲームPCの拡大期待。

## 三精テクノ (6357)



大阪万博関連で大型受注期待が高まり、急騰後も高値圏で強い動き。大勢上昇トレンドのなか、5日線や25日線の上昇を待つて上昇再開へ。90年に付けた最高値2550円奪回から3000円大台乗せも。

## ニチアス (5393)



11月21日に2149円の安値更新後も戻りは鈍い。第2四半期22.1%営業増益で19年3月期は通期増額期待あるも15万株超の買い残が重石。17年3月7日の安値2036円までフシはない。

## JCU (4975)



2Q決算発表を機に業績悪化懸念が強まり、5日線に上値を抑えられるかたちでほぼ一本調子の下げが続く。突っ込み警戒感はあるが、1200円近辺まで下値抵抗帯はなく、下げ止まる気配はない。

今週の

# 活躍期待銘柄



## アルファポリス (9467)

### 電子書籍販売で飛躍つづく

アルファポリス(9467)の株価は11月14日に2289円まで上昇した後、目先の利食い売りに押されていたが、25日線で下げ止まり動き。2000円割れの株価は狙っていきそうだ。

インターネット上の人気作品(文学・ビジネス・サブカルチャーなど)を書籍として出版、ポータルサイトと投稿の「アルファポリス電網浮遊都市」と連動して事業を展開している。19年3月期は自社サイト投稿作発の新シリーズや電子書籍販売が好調に推移し、営業利益で前年同期比3倍増の6億900万円と大幅な増益を達成、通期予想の12億円(前期比58・4%増)達成へ順調に推移している。シリーズ累計455万部を誇る主力タイトル「グレートSEA SON2」や女性向け恋愛小説の好調が続ぎ、来期以降の視界も良好。(と)

### 今期営業利益3倍を見直す



## イーソル (4420)

### 自動運転で独自技術に脚光

イーソル(4420)は青空相場を一段高へ進みそうだ。国内外の自動車や家電、産業機器メーカーなどを顧客に持つ組込みソフトウェアエンジニアリング企業で、自動運転への関心が高まるなか、AIと自律分散型プラットフォームを活用した新しい取組みが脚光を浴びている。独自開発のeBRADは人間の行動や振る舞いをパーソナライズして自動生成するAIフレームワークで、自動運転で機械が担う認知、判断、制御の3つのプロセスのうち「判断」に焦点を当てる必要技術を確立。二車線の高速道路を走行するパーソナライズドモデルは20分ほどの運転データで、構築できたという。足もとの業績も好調。今12月期は3Qで連結営業利益5億9900万円と、通期計画の4億9500万円(前期比14・4%増)を超過している。(さ)

### AIと自律分散型PFを活用

# 一旦調整でも想定内

## 高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

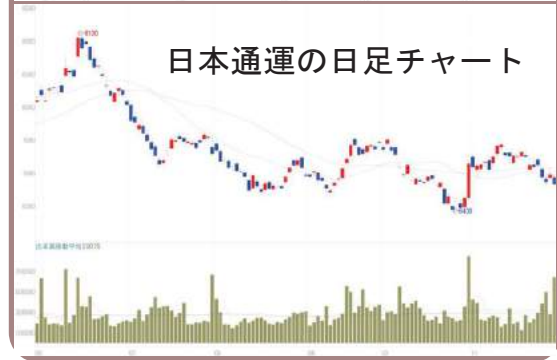
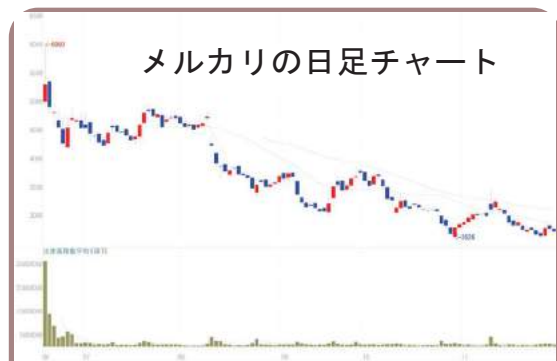
11月最終週は日経平均が2万2000円台へ戻りました。28日のニューヨーク市場ではダウが600ドル余り高くなり、これを受けて29日の東京市場はハイテクなどが高く始まり4連騰しました。しかし、寄り付き高となり、引けにかけて上げ幅を縮小する銘柄が続出しました。連騰の過程で幅広く買われ、たことで一旦は調整局面に入っても良い水準ですので、想定内の動きでしよう。

米国の急伸の要因はパウエルFRB議長が金利動向について「ほぼ中立水準に

## 2点底のメルカリを狙う

まで近づいた」と講演会で発言したことで、12月の引き上げ後には利上げを停止する可能性が高まったことが好感されたためです。日経平均はすでに米国に対して先行して上げていますので、米国株高が大幅であつてもそれほど大きく反応しなかつたといえます。むしろ、日経平均は11月の高値に接近するところまで上げた銘柄は高値警戒から上げ幅を縮小する傾向が強くなつていきました。そういう銘柄が調整する一方でこれまで戻りが鈍かつた銘柄が買われていきますので、良い意味で循環物色となつていきます。

今回の狙いはメルカリ(4385)です。業績への失望感から売られ続けていましたが、10月30日の安値2626円に對して、11月27日に2628円をつけて2点底を形成し反発しました。11月9日の3440円を目指して戻す動きに向



株です。の運送

それらの他、日本通運(9062)とSGホールディングス(9143)は、12月26日に3745円まで急騰後に下落続きでした。しかし、一応目先底入れと判断して見直しても良いと思います。

高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市情報  
これでどや!!  
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>  
毎日情報を配信中!



# 星野三太郎の株街往来

～戦略の変更～

11月相場は、アップルの大幅下落から国内外でハイテク系の多くが下落して、10月に続いて波乱の動きとなった。

アップルについては最新スマートフォン（iPhone XSとXR）の販売不振が理由とのこと。端末価格が10万円を超えても根強いファンは買い替えをしていく。ただ、大阪駅前の大塚電量店の販売フロアを覗くとPCのMacやiPadに多くのデモ機を割いていた。年配のご夫婦が熱心にiPadの操作方法を販売スタッフに聞く風景を見てみると、アップルは脱スマホに事業戦略の舵を切ってきたのかも知れない。国内ではPS4でゲーム機首位を独走するソニーも来年の世界最大ゲームショウのE3に参加しないことが伝えられていた。これが事実ならゲーム事業参入以来初の不参加になるが、これも消費者の趣向の変化を先読みしているのかも知れない。同じ事業で未来永劫成長を続ける企業は少ないだろう。新たな方向に進むには、それに対する批判も受けなければならぬ。その取り組みを応援することも必要だ。



## New product

「カプとれ」正式サービス  
24時間どこでもクレーンゲーム



**CAPCOM®**  
ネットキャッチャー  
カプトレ

カプコン(9697)は、24時間いつでもどこでもクレーンゲームが楽しめる「カプコンネットキャッチャー カプとれ」の正式サービスを開始した。

「カプとれ」は、スマートフォンやパソコンからインターネットを通じて、本物のクレーンゲームが24時間いつでもどこでも楽しめ、ゲーム内で獲得した景品は指定の場所へ無料で配送する。投入景品には、人気キャラクターのぬいぐるみや、フィギュアだけでなく、カプコンならではの人気ゲームからのオリジナル景品も続々登場。

オープン記念として、新規登録者全員に「カプとれ」で使用できる「500ゼニー(500円分相当)」を贈呈する。

## 大型ディーゼルエンジン開発

クボタ

中国向け後処理装置を簡素化

中国市場向け大型ディーゼルエンジン



クボタ(6326)は中国市場向け大型ディーゼルエンジンを開発した。100馬力以下で世界トップシェアの実績に加え、今回のラ

インフラの拡大により建設機械・産業機械に供給すること、200馬力以下に

おいても世界ナンバーワン産業用エンジンメーカーを目指す。今回開発した大型ディーゼルエンジンは単位排気量あたりの最大出力を引き出すだけでなく、同じ出力クラスで最高レベルの低燃費性能を実現。2020年に施行が予定されている中国のロード4次規制に向け、燃焼の最適化等により後処理装置SCRを使用せずに、規制に適合したエンジンとなっている。エンジンと周辺部品の搭載容積を抑え、建産機側での設計柔軟性の向上に貢献、一方からすべの部品がメンテナンスできる。レイアウトで、作業効率もアップする。



# ハチロクの裏話

敏腕先物トレーダー  
 日に米モルガン・スタンレーが2019年の日本株の見通しを中立から強気に引き上げたことも注目されよう。

## 上げ基調も壁は厚い

### 米中首脳会談の動きは？

先週の日経平均は5日連続伸び、その間の上幅は約755円となった。週初には2025年の万博が大阪で決まったこと、安値圏であった日経平均には祝儀的な買いが入り上昇した。週半ばには2月のFOMCで金利引き上げを打ち止めするような発言が伝わり、NY市場が大幅高となり日本株も連れ高した。

この間、上値抵抗ラインであった2万1900円処を抜き下落過程でできた窓も埋め(2万2046円29銭)たため、売り方の買戻しが入り2万95銭まで上昇した。また、25日に米モルガン・スタンレーが2019年の日本株の見通しを中立から強気に引き上げたことも注目されよう。

同社は9月11日にも日本株を強気に引き上げたが、その後10月上旬には日経平均が27年ぶりの高値を回復しており、今回も買い材料を探していた外国人投資家の背中を押しそうである。執筆は金曜日の午前中なので、1日の米中首脳会談の内容がわからないが、個人的には「一部を認め大筋を再継続」といった形で決着には至らず、交渉継続となるかみていく。

そうなればイベント通過で買入ってくる可能性もあると思われる。チャートの移動平均線、100日移動平均線が2万2500円前後に位置する。前週、2週足は1円23

はパウエル議長が1週間半ばに2月のFOMCで金利引き上げを打ち止めするような発言が伝わり、NY市場が大幅高となり日本株も連れ高した。

この間、上値抵抗ラインであった2万1900円処を抜き下落過程でできた窓も埋め(2万2046円29銭)たため、売り方の買戻しが入り2万95銭まで上昇した。また、25日に米モルガン・スタンレーが2019年の日本株の見通しを中立から強気に引き上げたことも注目されよう。

同社は9月11日にも日本株を強気に引き上げたが、その後10月上旬には日経平均が27年ぶりの高値を回復しており、今回も買い材料を探していた外国人投資家の背中を押しそうである。執筆は金曜日の午前中なので、1日の米中首脳会談の内容がわからないが、個人的には「一部を認め大筋を再継続」といった形で決着には至らず、交渉継続となるかみていく。

そうなればイベント通過で買入ってくる可能性もあると思われる。チャートの移動平均線、100日移動平均線が2万2500円前後に位置する。前週、2週足は1円23

### 今週のスケジュール

- ・ 30日 G20首脳会談(～12/1アルゼンチン)、米ロ首脳会談及び日米首脳会談、日ロ首脳会談、米中首脳会談の可能性
- ・ 1日 4K・8Kの衛星実用放送が開始  
メキシコ新大統領就任式、トランプ米大統領など出席の可能性
- ・ 3日 7-9月期法人企業統計(8:50)  
11月新車販売台数(14:00)  
米11月ISM製造業景況指数(4日0:00)
- ・ 4日 11月マネタリーベース(8:50)
- ・ 5日 米11月ADP雇用統計(22:15)  
米11月ISM非製造業景況指数(6日0:00)  
10月中古住宅販売件数(22日0:00)
- ・ 6日 米10月貿易収支(22:30)  
OPEC総会
- ・ 7日 10月家計調査(8:30)  
10月毎月勤労統計調査(9:00)  
10月景気動向指数(14:00)  
独、第1党のキリスト教民主同盟(CDU)党首選挙  
米11月雇用統計(22:30)

(ハチロク)

編集後記  
 温かい日が続いたせいでもうそんな時期になったのかと思うが、いよいよ週末に向けて海外投資家など参加者が減るなか、年内の換金売りと新年への期待感が交錯して上がったり下がったりするケースが多く「餅つき相場」とも言われる。さて、今年はどうか。米中関係、米金融政策と為替、欧州情勢を含め、月が替わっても商いが盛り上がる要因は見当たらない。

薄商いが続くなか、12月も需給にポイントを置いた中小型株物色が続くのだろう。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。